

令和 6 年度 学校関係者評価委員会 審議内容（令和 5 年度実績）

令和 5 年度の自己点検・自己評価は、令和 6 年 3 月から 4 月にかけて行った。教員は 8 名で実施している。今回実施した結果から総体的にそれぞれの項目が昨年の平均値を上回っている。相変わらず、Ⅷの財務については低値である。教員の経験年数の平均が、7.2 年である。教育歴が 1 年から 19 年とばらつきがあるが、10 年以上のベテラン閾の教員が 3 名で、比較的経験年数の浅い教員で構成されている。そのうち、当校での経験年数では、4.6 年（全員で 37 年）となっている。

当校の状況は、経験年数の浅い教員であるが、令和 4 年度から引き続いて教員を続けていることもあり、自己点検・自己評価については地道であるが、平均値を上回ってきている。

I. 教育理念・目的・育成人材像

令和 6 年 1 月に大阪府からの定期指導調査があった。12 年ぶりの調査であり、当時に指導調査を経験した教員は、わずか 2 名だけであった。ただ、前回の経験を活かし、教員の名札を作成し、その裏に教育理念・教育方針を書いたものを首にかけけるようにした。その時々はこの教育理念が意識できるようにしたこともあり、3.5 点という高い数値でもある。前回よりは高くなっているが、社会のニーズなどを踏まえた将来構想は低値である。

II. 学校運営

理念に沿った運営や事業計画は、定まっているかというのは低値である。学校運営のための組織を整備しているや人事・給与に関しての整備されていることもあり高値である。意思決定システムや情報システム化については、学則変更の時に整備はしているが新たな問題などが起こった時の意思決定システムは完全に整備されていないこともあり低値である。

III. 教育活動

新カリキュラムの申請とともに教育課程の編成方針や、実施方法など新たな計画もあり、教員の関心が高くなっていることで高値であると考ええる。成績評価や修了認定基準は明確化し、適切に運用していることもあり高値にある。⑧の作品及技術等の発表における成果を把握しているかは、1.8 と低値にある。ただ、1 年生の年間の発表会や 3 年生の卒業前の看護観など教科外の科目としているので、意識されていないのかと推測する。

IV. 学修成果

就職率は、100%である。学生は就職については学年担当や副学校長のほうに相談するケースが多いこともあり、学生の就職活動は把握している。資格・免許取得率の向上としては、個別の対応や補習講義などで国家試験対策を行っている。卒業生の社会的評価については、訪問はしていないが、病院に会いさつで行った先で、卒業生とあい、元気な様子を確認したりすることはできている。

V. 学生支援

就職の進路については、相談窓口として副学校長を拠点としている。退学なども保護者に来校して

いただき説明している。学生相談としては、主担・副担当制をとることや学生相談窓口を1週間に1回行っていることもあり学生支援体制から高値となっていると思われる。留学生に対する相談整備体制を整備していないこともあり低値である。健康管理については、コロナの影響もあり、健康チェックは続けて学生への健康管理を継続していることから3.6である。卒業生に対しての支援体制をとっていない、再教育プログラムの開発、社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備ができていないことから低値となっている。

VI. 教育環境

教育上の必要性に対応した施設・設備・教育用具などは整備している。ところが更衣室のエアコンなど十分までにはいかないことで3.2である。防災などの組織体制は、委員会とリンクしながら行い、学生の駐輪場なども学年別に分けて停留するようにしている。また、令和5年度の事故報告では、バイク事故が7件自転車事故が1件であった。1名は右ひじ骨挫傷で実習にも行けないことで科目留年となった。正門からのバイク運転には、近隣の方からも苦情というより、運転していると怖いので事故が起らないかという心配で連絡もあった。そのことも踏まえて事故が起きないように、玄関で見守りを実施しながら安全管理に努めている。

VII. 学生の募集と受け入れ

高等学校には、説明会に積極的に参加し、近隣の地区だけでなく、実習場所の近隣の学校にも情報提供のための説明などに参加した。入学選考基準は明確にしているが、令和6年度の募集では、定員に満たないため、後期試験の後にも追加試験を実施したが、受験者がなかった現状である。

VIII. 財務

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているかが、不明瞭なところもあり、財務分析よりも法人から持ち出しで学校が成り立っている状況からか、1.～1.5点と低値にある。学校経理はほとんどが経営母体が運用していることもあり、情報公開などはしていないことから財務としては教員も未知の状況から低値であると思える。

IX. 法令等の遵守

学校教育法、保助看法を遵守しながら学校運営を行っている。ただ、講義が学年にまたがっていたりしているのは、時間数などを見直ししていく必要がある。

自己評価については、指定調査で自己点検委員会を行い、関係者評価委員会を行い、行ったことをホームページで速やかに公開するよう指導を受けたこともあり低値となっている。

X. 社会貢献・地域貢献

令和5年度は、コロナの影響もあり社会貢献することができていなかったのも、低値を占めている。国際交流なども実際取り組んでいない現状から低値となっている。学生のボランティア活動も奨励はしているが、アルバイトなどを優先する学生が多いこともあり2.2点となっている。

全体を通じて

自己点検・自己評価することで、当校の問題や課題が明らかになっている。施設的には環境が整いつつあるが、洗髪を実施した学生が、臨地の現場との違いで患者さんに迷惑をかけたことがあった。臨床の現場も新しいものが開発されていることもあり、細かな備品難度の教材を準備していくことも必要である。コロナが 5 類に移行したこともあるが、学生にはマスク着用し、医療者からの感染を防ぐことの必要性を理解できるようにするのも学校の教育であり使命でもある。

今年のことであるが、戴帽式に学生が一時的なショック状態に陥ったこともあり、教員の緊急時の対応も教育活動として重要なことであり、学生の安全管理という観点からも実践的な緊急時のシミュレーションを行っていくことも課題と考える。

方向性

1. 教員間での自己点検自己評価委員会を行い、他の教員にも自己点検・自己評価の必要性を認識できるように働きかけていきたい。
2. 学生の転倒及び緊急事態の備えて、一時救命救急のシミュレーションを実施していく。
3. ボランティア活動等の紹介や献血などを通じて、地域や社会に貢献することも意識できるようにしたい。
4. 臨地実習に適した学内演習ができるように、新たな教材などにも学生がなじめるように教材の整備を行い、学生が臨地実習でも活用できるように整備をしていきたい。